

2023年 4月 12日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	高橋 晶子	所属	建築学科
		職位	教授
研究課題	プラハとウィーン近代建築視察		
研究先機関	別紙工程表のとおり		
主な滞在地 (国・都市名)	プラハ (チェコ)・ウィーン (オーストリア)		
渡航日程	2023年 3月 21日 ~ 2023年 3月 29日 (9 日間)		
研究目的・理由	プラハとウィーン近代建築視察		
研究成果発表予定 (展覧会、著書、 論文発表等)	未定		

研究内容

本研修は、日本建築学会関東支部神奈川支所企画の建築視察団体旅行に参加する形で実施した。

テーマ：「アールヌーヴォーから白い箱へ」

オットー・ワグナーとアドルフ・ロースの作品を中心に、1890-1900年代のアールヌーヴォー、1910年代のチェコキュビズム、1920年代のモダニズムの建築を視察した。以下に訪問作品リストを記す。

◇オットー・ワグナー Otto Wagner(1841-1918)

アールヌーヴォーを代表する建築家の一人。様式的意匠と近代的意匠を併せ持つ作風でウィーン市内に数多くの建築・土木作品を残している。ホフマン、オルブリッヒ、プレチュニックなどの弟子を輩出。

- ・カールスプラッツ駅 (Otto Wagner Pavillon Karlsplatz 1899)
- ・ケッテンブリュッケンガッセ駅 (Kettenbrueckengasse 1896)
- ・マジョリカハウス (Majolika haus 1898-99)
- ・メダリオンハウス (Medaillons haus 1898)
- ・ホーフパビリオン・ヒーツィング (Hofpavillon Hietzing 1899)
- ・カイザーバード水門監視所 (Kaiserbad Watergate 1907)
- ・アム・シュタインホフ教会 (Kirche am Steinhof 1907)
- ・オットー・ワグナービラ I/II (Villa I/II 1886/1912)
- ・ウィーン郵便貯金局 (Postal Savings Bank 1906)

ワグナーの弟子達の作品

- ・ゼツェッション館 (Secessionsgebaude 1897-98, Joseph Maria Olbrich)
- ・プーカースドルフのサナトリウム (Sanatorium Purkersdorf 1904-05, Josef Hoffman)

◇アドルフ・ロース Adolf Loos (1870-1933)

チェコ出身、ウィーンで活躍した建築家。「ラウムプラン Raumplan」という概念（階ごとでなく、水平、垂直方向の大きさが自由な部屋が相互に関係づけられながら立体的に配される）を提唱。合理性に基づいた近代建築の空間構成の先駆けともいえる作品と批評で知られる。

- ・ヴィンターニッツ邸 (Villa Winternitz 1931)
- ・ブルンメル邸 (Brummel House 1928-29)
- ・クラウス邸 (Kraus House 1930-31)
- ・フォーグル邸 (Vogl House 1929)
- ・ミュラー邸 (Muller Villa 1928)
- ・ロースホール@ブルーノ (Loos Hall the Bauer Chateau 1922-23)
- ・Knize 洋装店 (Knize 1906) ・アメリカン・バー (American Bar 1908)
- ・ロースハウス (Loos Haus 1910) ・マンツ書店 (Manz Bookshop 1912)
- ・カフェ・ムゼウム (Café Museum 1899)
- ・シュタイナー邸 (Villa Schuteiner 1910)

◇そのほかの主な視察作品

- ・ストラホフ修道院 (Strahov Moneastery 1140)
- ・チェコのキュビズム建築 4 件 (1913-1914, Josef Chochol 他)
- ・トゥーゲンハット邸 (Villa Tugendhat 1928-30, Mies van der Rohe)
- ・オーストリア国立国会図書館 (Austrian National Library 1737, Fischer von Erlach)
- ・ヴェルクブンドジードルング (Werkbundsiedlung 1932) 他

大学授業における
研究成果の還元

実質 6 日間という限られた時間のなか、数多くの作品を予定通り巡ることができた。

研究対象（人物と時代）を絞ったことで、チェコとオーストリアにおける特徴的なモダンデザイン初動期の実勢を詳細に見て取ることができたと考える。

◇ワグナーの実績には改めて目を見張った。単体の建築のみならずウィーン市の運河開発や地下鉄駅といったインフラづくり、芸術大学での教育活動など質量ともに広大である。ウィーン市の各所にその仕事が埋め込まれ、ウィーンを形成する通奏低音のひとつとなっている。

◇ロースの作品群を実際に訪れたことで、写真媒体だけからでは理解することが困難であった「ラウムプラン」の概念を体感することができたことは今回最大の収穫であった。レベルの異なる大小さまざまなスペースがひとつのシンプルな箱の中に立体的に収まり、メリハリあるシークエンスを創り出している。機能上の分節を合理的に行いながら、隣接する空間にいる人の気配が感じ取れるプランニングと、こだわりぬいた素材や色彩が総合化された独特の作風が見て取れる。

◇キュビズム建築群は世界的に見てチェコにしかない。チェコだけが絵画彫刻に限定せず建築にもキュビズムのデザインを施した。斜線、斜面の多用が特徴的で、ボヘミアングラスのカットを思わせる。アールヌーヴォーの植物的モチーフから白い箱の幾何学的モチーフへと建築デザインが変化する流れのなか、ちょうど中間の非常に短い期間に実現した稀少なものである。

大学授業における還元は、以下を予定している。

1) 研究・制作ゼミ

卒業修了制作高橋スタジオ所属学生を対象に研修報告のレクチャーを実施予定。1900 年頃から 1930 年代まで対象地で実現した建築とその時代背景を解説し 20 世紀初頭のデザイン潮流の知見を共有するとともに、質問回答や意見交換を通して学生ひとりひとりの受け止め方の広がりを確認したい。

2) 講義科目

担当授業「建築計画 A」「建築計画 B」にて、それぞれのシラバスに沿いながら適切な作品の事例を紹介する。例えば「素材」の項目において、アドルフ・ロースやミース・ファン・デル・ローエが使用した大理石の果たしている役割、「構成形式」の項目について、アドルフ・ロースの提唱したラウムプランの概要、「内外集合住宅」において、ウィーン工作連盟の住宅団地ヴェルクブンドジードルングの紹介などがあげられる。

3) 演習科目

設計計画 II . III . IV の個別エスキスにおいて、視察した作品が参考になる場合、詳細な情報とともに学生に共有する。

プラハとウィーンの近代建築視察旅行 日程

月 日	曜	発着地	時刻	交通機関	摘 要	食事
2023年 3月21日 ①	火	羽田発 フランクフルト着 フランクフルト発 プラハ着	10:00 12:15 18:55 20:40 21:40	LH-717 LH-1402	羽田空港に集合。 搭乗手続き後、フランクフルト乗り継ぎにてプラハへ 着後、ホテルへ (プラハ泊)	機
3月22日 ②	水	(プラハ)	終日		◆プラハ市内建築研修(専用バス) ◎プラハ歴史地区(カレル橋、旧市街広場)、プラハ城(聖ヴィート大聖堂、黄金の小道、旧王宮)、黒い聖母の家 ◎ヴァンダーニッツ邸(内部見学)、ダンシングビル(公共部分) ◎ストラホフ修道院の図書館 ◎市民会館、キュビズム美術館(自由) (プラハ泊)	朝 昼 一
3月23日 ③	木	プラハ発 (ブルゼニ) プラハ着	午前 午後		◆キュビズム建築(外観) コヴァロヴィツク邸、ネクラノヴァ通りの集合住宅、ヴィシェフアド2世台住宅 ◎ミユラー邸 ※いくつかのグループに分かれます 専用バスにてプルゼニへ ◆ロース作品見学 KRAUS、VOGL、HUGOSELMER 見学後、プラハへ ◎市民会館(夕食) (プラハ泊)	朝 昼 夕
3月24日 ④	金	プラハ発 (ブルノ) ウィーン着	午前 午後		専用バスにてブルノへ(約210キロ・約2時間30分) ◆ブルノ建築研修 昼食(Eraにて) ◎トーゲンハット邸(90分ツアー・2班)・聖ヤコブ教会納骨堂 見学後、専用バスにてウィーンへ(約140キロ・約2時間) ○ガソメーター (ウィーン泊)	朝 昼 夕
3月25日 ⑤	土	(ウィーン)	終日		◆ウィーン市内建築研修(地下鉄1日券) ◎シュテファン大聖堂、KNIZE 洋服店、ハースハウスなど アメリカンバー-LOOS 昼食 ◎ゼセッション館、国立図書館など ※夕方よりフリータイム・オプション楽友協会コンサートを予定 (ウィーン泊)	朝 昼 一
3月26日 ⑥	日	(ウィーン)	終日		◆ウィーン市内建築研修(専用バス) ◎オット・ワグナービル、シュタイン・ホーフ教会、 昼食(クストハウス) サナトリウム(外観)、ワークバンドジードルンウィーン(外観) 夕食(ウィーン家庭料理レストラン) (ウィーン泊)	朝 昼 夕
3月27日 ⑦	月	(ウィーン)	終日		◆ウィーン市内建築研修(専用バス) ◎ヴァイトゲンシュタイン邸 フンデルワツサーハウス(外観)、中央銀行など ロースハウス(3月修復予定・見学については再確認が必要) 昼食(カフェムゼウム) ◎郵便貯金局、ヌスドルフの運河堰、高射砲塔、カールマルクスホフ MOLLER HOUSE(内部見学が不可の場合は外観) 夕食(ウィーンの森ホイルゲ) (ウィーン泊)	朝 昼 夕
3月28日 ⑧	火	ウィーン発 フランクフルト着 フランクフルト発	08:30 11:20 12:50 14:10	専用バス OS-209 LH-716	ホテル出発 フランクフルト乗り継ぎにて帰国の途に (機中泊)	朝 一 機
3月29日 ⑨	水	羽田着	09:45		到着、入国手続き後解散	機

利用予定航空会社:ルフトハンザ・ドイツ航空(LH)、オーストリア航空(OS)

※見学先、スケジュールにつきましては変更になる場合がございます。(現在調整中)

◇オットー・ワグナーの作品-01



左) ケッテンブリュッケンガッセ駅 (Kettenbrueckengasse 1896)

中) マジョリカハウス (Majolika haus 1898-99) 右) メダリオンハウス (Medaillons haus 1898)



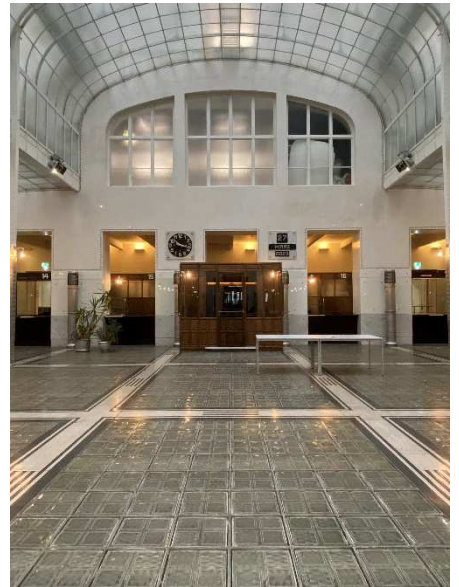
左) カールスプラッツ駅 (Otto Wagner Pavillon Karlsplatz 1899)

右) ホーフパビリオン・ヒーツィング (Hofpavillon Hietzing 1899)



オットー・ワグナー ビラ I (左) / II (右) (Villa I/II 1886/1912)

◇オットー・ワグナーの作品-02



左) アム・シュタインホフ教会 (Kirche am Steinhof 1907)
中・右) ウィーン郵便貯金局 (Postal Savings Bank 1906)

◇ワグナーの弟子たちの作品



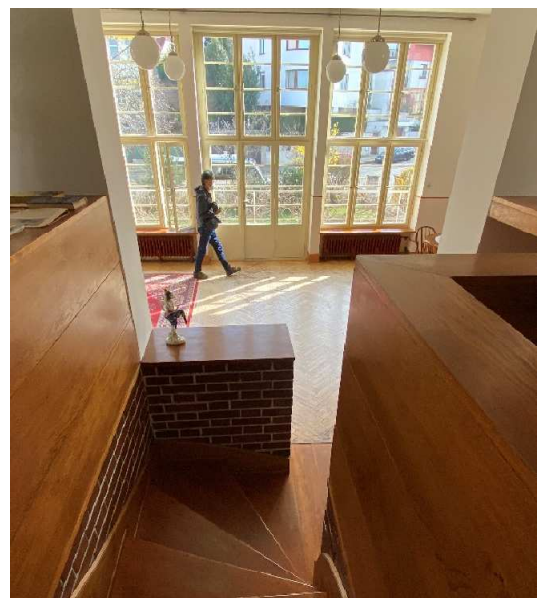
左) プーカースドルフのサナトリウム (Sanatorium Purkersdorf 1904-05, Josef Hoffman)
右) ゼツェッション館 (Secessionsgebaude 1897-98, Joseph Maria Olbrich)

◇アドルフ・ロースの作品-01



左) プルゼニ市庁舎でロース設計作品リストを見る

中) フォーグル邸 (Vogl House 1929) 右) クラウス邸 (Kraus House 1930-31)



左・右) ヴィンターニッツ邸 (Villa Winternitz 1931)



左) ブルンメル邸 (Brummel House 1928-29) 右) ミュラー邸 (Muller Villa 1928)

◇アドルフ・ロースの作品-02



左) ロースホール@ブルーノ (Loos Hall the Bauer Chateau 1922-23)

中) Knize 洋装店 (Knize 1906) 右) マンツ書店 (Manz Bookshop 1912)



左) ロースハウス (Loos Haus 1910) 右) カフェ・ムゼウム (Café Museum 1899)



左・右) シュタイナー邸 (Villa Schuteiner 1910)

◇そのほかの主な視察作品-01



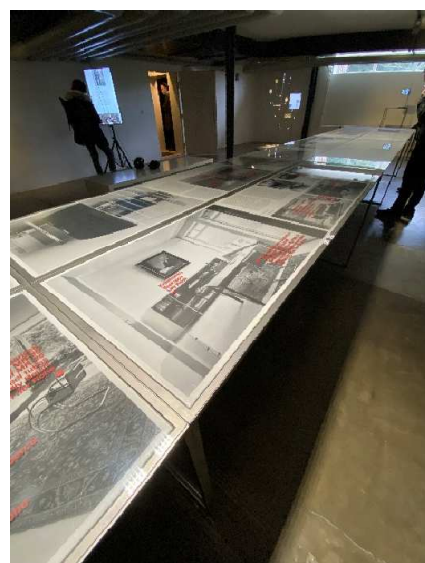
左) ストラホフ修道院 (Strahov Moneastery 1140)

中・右) ネクラノヴァ通りの集合住宅 (Apartment in Nekranova 1913-14, Josef Chochol)



左) ヴィシェフラドの三世代住宅 (1913, Josef Chochol)

中・右) 黒い聖母の家 (House of the Black Madonna 1912, Josef Gocar)



・トゥーゲンハット邸 (Villa Tugendhat 1928-30, Mies van der Rohe)

◇そのほかの主な視察作品-02

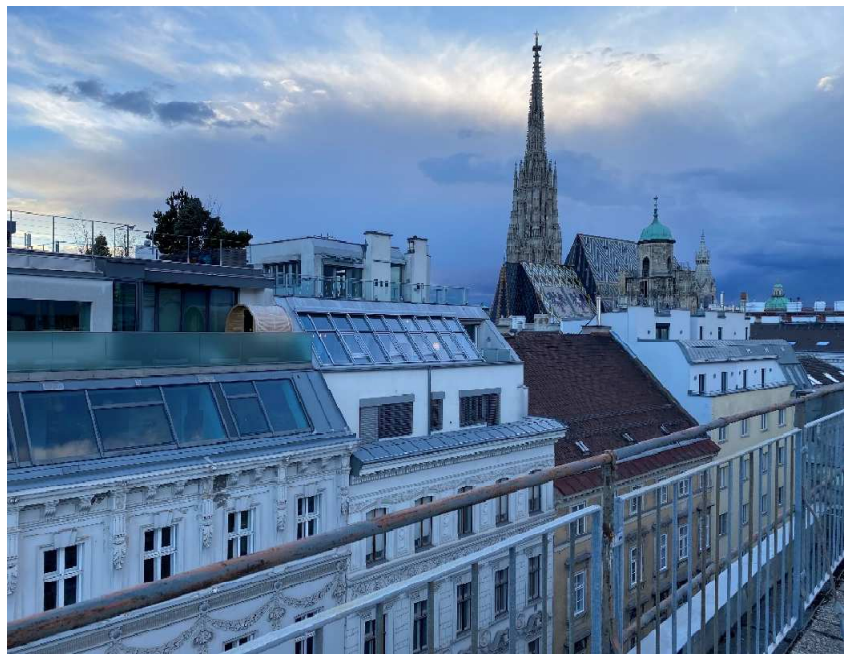


左) オーストリア国立国会図書館 (Austrian National Library 1737, Fischer von Erlach)

右) カール・マルクス・ホフ (Karl Marx Hof 1927, Kahl Ehn)



左・右) ヴェルクブンドジードルング (Werkbundsiedlung 1932, Adolf Loos 他)



左) クunstハウス・ウィーン (1989-91)

右) 友人の建築設計事務所屋上から見るシュテファン大寺院